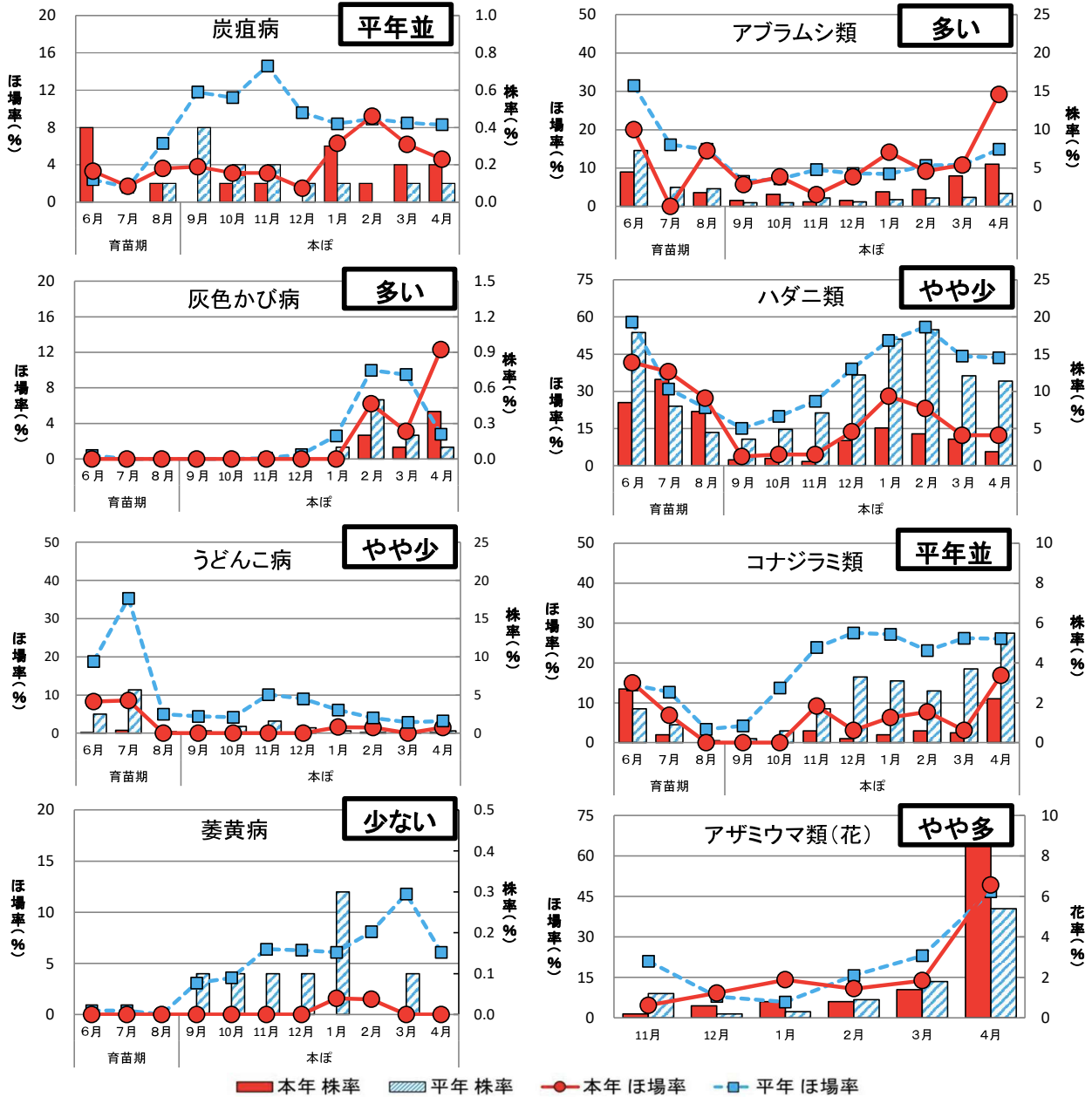


いちご病害虫情報第11号（4月）

令和6（2024）年4月19日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

— 育苗時の防除 —

高温傾向が続くことを念頭において、適切な親苗管理を行いましょう。

- 1 防虫ネットを展張し、アブラムシ類等の害虫の侵入を防ぐ。
- 2 除草を行い、ハダニ等の増殖源を絶つ。
- 3 適切なかん水を行い、水のはねかえり等による炭疽病、疫病の発生を防ぐ。
- 4 炭疽病、萎黄病の発病株は早急に抜き取り、ほ場外で処分する。
- 5 本ぼと親株ほ場の往来に注意し、親株への病害虫の持込みを防ぐ。

「とちあいか」「とちおとめ」品種別病害虫発生調査結果について

令和6年産のいちごの病害虫発生調査結果について、主要8病害虫の発生量の推移を品種別に集計しました。萎黄病は、前年産と同様、強い特性を持つ「とちあいか」では発生が認められませんでした。1月以降、炭疽病は「とちおとめ」で、アザミウマ類(花)は「とちあいか」で発生が多い傾向がみられました。

【調査期間:2023年6月～2024年4月 ほ場数: とちおとめ14～19、とちあいか29～39(月ごとに変動)】

■ 主要8病害虫の品種別発生推移

